

心臓血管外科

(1)2年間の初期研修で到達可能な臨床レベル

一般および救急患者の基本的診察法を学び、各種臨床検査の評価方法や意味を理解しながら、観血的治療ならびに保存的治療を要する患者の入院管理および手術助手を行う。特に当院の場合は通常の定期手術症例だけでなく大動脈解離や動脈瘤破裂、急性動脈閉塞などの緊急例も多いこと、循環器内科や集中治療医との親密な連携治療を行っていることが特徴である。2年間を通じて当科で3ヶ月以上研修を選択された場合には、指導医のもとに胸骨正中切開による開胸手技、右房縫合処置、皮膚切開から大腿動脈露出ならびに縫合処置、執刀に準じた形での静脈瘤手術とペースメーカー交換術が行えるようになる。

(2)後期専攻医（専門医研修）へのつながり

当院は京都府立医科大学の外科ならびに心臓血管外科の専門医研修プログラム関連病院となっている。心臓血管外科を目指す者だけではなく、消化器外科や乳腺外科・呼吸器外科・小児外科などの他方面の外科を希望する研修医・専攻医が外科専門医を取得するための必須カリキュラムを効率よく取得することができる環境にある。当院は心臓・大血管・末梢血管ともに手術症例が豊富であり、日本外科学会の現行認定専門医カリキュラムに関しては2か月の研修で必須項目が取得可能である。